

# 観察、実験と言語活動が織り なす理科授業の流れ

## 言語活動を位置付ける場面

場面Ⅰ 観察、実験の前に行う



言語活動Ⅰ

場面Ⅱ 観察、実験の後に行う



言語活動Ⅱ

2つの場面が重要です。



「言語活動」と「観察、実験」  
を体系的にまとめると次のよう  
になります。

理科学習指導プラン（福島県教育委員会）より





問題意識を醸成し、自分のこととして課題をとらえさせる場面として言語活動が重要となります。言語活動を充実させるためのポイントをまとめました。

## 言語活動を充実させるポイント

### 言語活動Ⅰにおいて

二

#### 予想や仮説をもつ場面

- ① 子ども一人一人が、それまでの経験や知識等により予想や仮説を持つ。
- ② 子どもたちが互いの予想や仮説について話し合い、相互理解や共有化を図る。
- ③ 話し合い活動を通して、観察、実験の目的を明確にする。

### 言語活動Ⅱにおいて

二

#### 観察、実験の結果から、何が言えるのかを考察し、まとめていく場面

- ① 子どもが出した観察、実験の結果を、予想や仮説と照合しながら考察する。
- ② 観察、実験の結果における共通性や傾向性に着目しながら結論をまとめる。
- ③ 日常生活との関わりや活用を考える。



理科の授業は、観察、実験のおもしろさを求めるあまり本来学習すべき内容とズレが生じてしまいがちです。  
観察、実験の前後の言語活動が、観察、実験の位置付けを明確にします。